

建設防災 ボランティアニュース 第64号

目次

- ・ 平成 29 年度定期総会
- ・ 第1回リーダー会
- ・ 西建現場見学会
- ・ 南東建意見交換会
- ・ 道路施設等点検始まる

平成 29 年度定期総会開催！！

— 設立 20 周年を迎えました —

平成 29 年度定期総会は、6 月 26 日（月）午後 2 時 30 分から東京都道路整備保全公社 A・B 会議室で会員 78 名の参加により開催しました。併せて、今年度は設立 20 周年に当たるため、総会に先立ち記念式典を執り行いました。

冒頭、杉浦会長は、「平成 9 年 6 月 24 日の設立総会から本年 6 月で 20 周年を迎えました。平成 7 年の阪神淡路大震災を契機に、ボランティアの重要性が高まり、その機を捕えて建設局と OB が真摯に協議を重ねて協会を設立し、そして活動を支えてきた努力に敬意を表します。

最近東京には大きな災害がなく、災害の発生リスクは高まっていると言わざるを得ない。20 年という活動の節目を迎え、改めて気持ちを新たに協会の活動に取り組むとともに、将来に向けて活動を絶やすことなく、後進の方々に引き渡していかなければなりません。引き続き活動への参画と継続をお願いしたい。」との力強い挨拶がありました。



挨拶する杉浦会長

続いて来賓の方々から、挨拶を頂戴いたしましたので、その抜粋を紹介します。

●西倉建設局長



設立 20 周年おめでとうございます。協会には、長年にわたり様々な場面で協力と支援を頂いており感謝している。中でも防災訓練への協力は非常に心強く思っており、引き続きの協力をお願いしたい。

小池都政になって早 11 箇月が経とうとしている。この間、特定整備路線や扇橋閘門の視察、車椅子でのバリアフリー点検の体験をしていただくなど、手探りで知事と対応してきた。その甲斐もありようやくインフラ整備の重要性をご理解いただいた。建設局として腰を据えて事業に取り組む環境が整ってきている。これからも局の事業を進めていくためにも、ボランティア協会の皆様のノウハウや知見をもって後輩の現役職員を指導していただきたい。

●横溝東京都道路整備保全公社理事長

設立 20 周年おめでとうございます。20 年前を思い出すと、その頃は協会の現会長も副会長も現役職員でした。協会はまだまだ若い組織だと思います。公社も若い協会の皆さまと活動を共にしていきたいと思えます。



公社と最も深い関係があるのは勝どき橋のミニツアーだと思います。先般、日本道路建設

業協会の機関紙「道路建設」の7月号の特集に寄稿したが、その冒頭に建設局のOBであるボランティア協会がツアーガイドをしており、評判も非常に良いと書いたもので、ぜひ一読願いたい。残念ながら長寿命化等の工事により12月末から約1年半の休止となるが、公社としてはぜひ再開したいと考えている。歳をとったからツアーガイドの要領を忘れたなどと言わずに、再び参加いただけるよう是非お願いしたい。

●佐野東京都公園協会理事長



設立20周年に心よりお喜び申し上げます。都市公園は避難場所や大規模救出救助活動の拠点として、水上バスは帰宅困難者や救援物資の輸送手段として重要です。公園協会も災害対応の向上や緊急時のノウハウ蓄積に向けて、地域の方々との実践的な訓練に力を注いできました。また、この3月には発災時の施設等の役割を解かり易く説明した「防災公園総合ハンドブック」を作成し、地域の方々に配布しました。

これまでも防災訓練、初動対応訓練など皆さんと一緒に取り組んできました。都民の安心安全を守るため、今後ともボランティア協会との連携を密にして、災害時の備えが十分に図られるよう取り組んでまいります。

来賓挨拶に続き、今回20周年を記念して作成した「20年のあゆみ」を紹介しながら、新井副会長がこの20年間の協会活動の経過報告を行いました。

続いて設立以来20年にわたり協会活動を支えてこられた、以下の7名の方を紹介し、出席された加山会員、栗田会員に感謝状を贈呈するとともに、代表として栗田会員から挨拶をいただき、記念式典は滞りなく終了しました。

●20年継続会員(敬称略)

市村寛、植杉隆夫、加山宏、栗田則男、高杉昇治、田澤成雄、吉田正一



挨拶する栗山会員と加山会員

しばしの休憩後、藤田理事の進行で伊藤精美さんを議長に選出し、定期総会の議事に入りました。

まず、平成28年度事業報告を野村理事が、同収支決算報告を萩原理事が説明し、輿水監事が会計監査報告を行った後、一括して拍手により承認されました。

続く平成29年度事業計画(案)は新井副会長が、これに伴う収支予算(案)を萩原理事が説明し、これも満場一致で承認されました。

また、今年度は役員改選時期であるため、最初に杉浦会長が改めて互選され、その後会長から副会長3名、理事9名、監事2人の再任と、新たに佐野正生さん、鈴木秀一さんが理事に、堀中逸さんが監事にそれぞれ推薦され、承認されました。また、顧問も現職の7名が会長から改めて指名され、了承されました。



議案を審議・承認する参加会員

議事終了後、会長から今年度のリーダーとサブリーダーに委嘱状が手渡され、また協会に貢献

されてきた下記の方々への感謝状の贈呈、新入会員4名の紹介、挨拶等が行われ、全ての次第を終えました。

- 年間10回以上活動会員【()内活動回数】
**池田繁敏(17)、佐野正生(16)、長島修一(14)
中込孝仁(13)、荒井一朗、小山完治、
藤井賢介、船山吉久(以上12)、鈴木秀一、
瀧澤勝(以上11)、伊藤政行、柿塚至、
黒淵弘二、林健一郎、平野敬治、丸山勝彦、
若尾啓介(以上10)**
- 15年継続会員(敬称略、以下同)
**奥富宣雄、小森和雄、佐藤肇、中田勝司、
古川公毅、谷貝忠昭、倭文佐一**
- 10年継続会員
**阿久津勉、伊藤政行、内山一夫、大坪安則、
久保田元久、黒淵弘二、佐藤清美、瀧澤勝、
田戸哲夫、中込孝仁、那須井幸一、森田秀樹、
吉田安輝**

総会終了後79名の方々が、場所を都庁第二本庁舎4階食堂に移し懇親会を行いました。総会に続き藤田理事の進行により、杉浦会長の挨拶、柿塚顧問の乾杯の音頭で始まりました。これまでの20年から、これからの20年に向けて、来し方行く末を語り、互いの近況を語り合い、皆さん楽しい時間を過ごし、最後に新規に再入会された米田会員の賑やかな締めでお開きとなりました。



賑やかな懇談風景

広報担当理事 林 幹生

一協会と建設局の役に立ちたい一



今年度、建設防災ボランティア協会の会員となり、初めて定期総会に参加しました。多くの会員が総会に参加していたものの、出席した新入会員は、再入会の会員の他は私だけでした。今後も退職者が少ない年が続くことを考えると、協会の活動に積極的に参加する必要性を痛感しました。

現役の頃の振り返ると、東日本大震災のときが思い出されます。私のいた事務所では所長、副所長をはじめ半数の管理職が出張等で不在のなか、会議室に所の災害対策本部を立ち上げて管内の被災状況の確認などを行っていました。その際、経験豊かな協会員が参集され、災対本部の運営状況などを見たうえでの確なアドバイスを頂き、安心して震災対応ができるようになったことを思い出します。

その他にも、道路施設等点検で詳しい職員を班に配置できないときに、OBさんに聞いて点検するよう部下に指示をさせて頂くなど、協会員の皆様には、様々な場面でお世話になり大変ありがとうございました。

さて、今回参加した定期総会は設立20周年記念大会を兼ねた総会でした。杉浦会長や来賓の皆様のご挨拶では、災害関連だけでなく、都民の理解を得るための多岐にわたる活動も紹介されるとともに、協会の活動への期待を伺いました。また、20年にわたる協会の活動が紹介され、20年間活躍された会員の挨拶をはじめとして、諸先輩方の様々なご活躍のお話を伺い、頭が下がる思いでした。

私自身の協会員としての活動は、生まれ育った世田谷区と現在住んでいる渋谷区を所管している二建の班と、勝どき橋ミニツアーに手を上げさせて頂いています。総会後の懇親会では、それぞれにかかわる方から活動の状況などを教えて頂きました。協会に暖かく迎え入れて頂いたことを感謝するとともに、少しでも協会

と建設局のお役に立てればと思っています。これからもよろしくお願ひします。

二建班 高尾弘幸

第1回リーダー会議開かれる

—皆さんは協会運営の重要な担い手—

29年度第1回リーダー会議が7月3日午後、道路整備保全公社会議室において開かれました。これは、1週間前の定期総会で承認された事業計画に基づき、本年度事業を円滑に進めるために協会役員と各事務所リーダー等との意思疎通や意見交換等を図るために行なわれたものです。

会議には理事16人、リーダー・サブリーダー22人が参加し、二宮副会長の司会進行のもとで始まりました。

最初に杉浦会長から「今年度は約1/3のリーダー・サブリーダーの方々が交代したが、組織の発展・維持には不可欠なことと思っている。災害は都政の運営とは関係なく起こりうるので、十分な心構えをしておきたい。皆さんは協会運営の重要な担い手なので、今年度もよろしくお願ひしたい。」との挨拶がありました。

次に総会に出席できなかった5名の方々に会長から委嘱状が渡されました。

議事は、1)29年度の事業予定、2)河川愛護月間行事の支援、3)東京都総合防災訓練、4)その他の議題が示されました。

最初に1)29年度事業予定については、二宮副会長が本年度の各事業(河川愛護月間行事、施設見学会、救命・救急講習会、勝どきミニツアー、建設局長による感謝の会、初動対応訓練)について実施時期、担当役員、概要について説明し、各事務所班の会員と連絡を密にして事業の円滑な実施を願ひたいと説明しました。

次に2)河川愛護月間行事の支援については、高橋理事から①各行事の支援人数69名について全行事への参加が決定したことの謝辞と、②今年度新たに依頼された「夏休み多摩川教室」と

「川フェスタ・井の頭公園」についてはボランティア会員であることを明示するため帽子、作業服、名札の着用を願ひたいとの説明がありました。

3)の東京都総合防災訓練については、久保田理事が総務局から示された資料をもとに説明がありました。

その内容は、実施日時は9月3日(日)9時から13時まで、会場は調布市多摩川児童公園ほか、統一テーマは昨年度と同一の「自助・共助」と「連携」、主な訓練内容としては①地域住民による避難訓練②住民による自助・共助訓練③救出救助活動等訓練④医療救護班活動訓練⑤検視・検案・身元確認訓練⑥展示・体験、応急復旧等訓練などです。

今年度は北多摩南部建設事務所班及び西部公園緑地事務所班が該当になるが、それ以外の事務所班にも協力を依頼することがあるとの説明がありました。具体的な訓練内容は現在協議中とのことであり、決まり次第、建設局から連絡があるので担当事務所のリーダーの方へは別途通知するとのことでした。

また、久保田理事担当の総合防災訓練、初動対応訓練、道路施設点検について過去5年間の日程実績などをまとめた資料を配布し、各リーダーや事務所会員の連絡に遅れがないよう協力を求めました。

広報担当理事 丸岡敏夫



熱心に説明を聞く、リーダー、サブリーダーの皆さん

西建班現場視察

— 現役職員の気概を感じる —

西多摩建設事務所では、初動対応訓練から一週間後というお忙しい中を、防災ボランティア西建班に対し現場見学会を開催していただきました。

この時期としては天候に恵まれた2月16日、石坂所長と三上工事第一課長の案内で、西建で用意して頂いたマイクロバスで現場を視察しました。



最初に向かった青梅3・4・4の現場は、多摩川に沿う急斜面地に整備されるため、上下線を分離し、中央分離帯部分に

テールアルメ工法を採用して高低差処理を行っています。壁面部材の大型化により設置効率を高めていると、土屋統括課長代理より説明がありました。

次に向かったのは、多摩川南岸道路城山工区を過ぎた左手の急勾配の町道を登った海沢川砂防工事現場でした。



現場発生土を中詰めに利用したダブルウォールの堰堤はすでに完成しており、引続き流路工と切り回し道路橋の整備を行うと荒川工事第二課長、齋藤課長代理から説明がありました。急峻な地形と北斜面の日陰の現場での工事の大変さを痛感しました。

次の現場の日原街道は、車両のすれ違いが困難な急峻な谷側へ軽量盛土工法により道路拡幅する工事が進められていました。現場の状況に則した様々な工法を検討、採用して対応がされています。

日原街道の最奥部は、東日本大震災で崩落した燕岩の現場です。その先は、マス釣り場や西谷

山を經由して雲取山に通じるハイキングコースとなっており、地元の産業や観光を支える道路となっていますが、通行止めが続いています。

現場では、島嶼を除く都内では初めての洞門工事を行っており、柱・梁のプレキャスト部材は新潟より搬送されていると、森田補修課長、佐藤奥多摩工区長より説明がありました。1スパンの洞門が完成し、引続き底版、胸壁部分の打設が行われていました。コンクリートの打設養生にシートと温風機を用いて行うなど、氷点下ともなる厳しい現場での苦労が感じられました。)



その後、奥多摩出張所に寄り、最近購入されたメルセデスベンツ製の除雪機を根津出張所長、川東課長代理に案内いただきました。

帰路には、地元から長年の懸案事項となっている梅ヶ谷トンネルの抗口予定地を案内いただき、予定時間を超えて事務所へと戻りました。

その後、場所を替えて西建管理職の皆さんとボランティア会員9名とで意見交換を図り懇親を深めました。

現場視察を通し、急峻な地形、厳しい環境条件のなかで、都民のため一生懸命に取り組まれている西建職員の気概を改めて感じました。石坂所長をはじめ西建の職員の皆様、大変お世話になりました。

西建班 谷村秀樹

南東建班講演会・意見交換会

— 有限要素法を解かりやすく —

3月8日(水)南多摩東部建設事務所(以下「南東建」)所属班の防災ボランティア(当日の参加者:杉本、武内、矢内、若尾、佐々木、柴田。懇親

会から原田。以上敬称略。)は、同事務所さんのご協力、ご支援のもと、講演会及び意見交換会を実施しました。



当日は、防災ボランティアの杉本(元東京都土木技術研究所技術部長)先生に講師役をお願いしました。今回は、「有限要素法による地盤掘削や地下水浸透の解析例」～地盤工学における有限要素法の利用にあたって～という、少し専門特化したテーマにもかかわらず、鹿田所長、斉藤副所長はじめ幹部職員に加え、若手職員等も交え28名の参加をいただき実施しました。過日の福岡市における地下鉄工事現場の陥没事故後ということもあり、事前のご質問もいただき、午後3時45分から5時30分過ぎに及ぶ、盛り上がった講演会となりました。

今回の講演では、(1)掘削・浸透問題への有限要素法解析の歴史、(2)地盤を掘削するとどんなことが起きるか?——山留め壁と周辺地盤の変形をみてみよう、(3)事例の紹介では、事例1→軟弱地盤での深い掘削時のヒービング検討(二建:環状8号線羽田空港トンネル工事)、事例2→開削トンネル掘削時の地下水流動保全対策(三建:井荻トンネル工事)、事例3→掘削時の出水に対する緊急地下水対策(鹿児島市の地下歩道工事)、事例4→集中豪雨による斜面崩壊と地下水対策(南西建:ひよどり山有料道路関連八王子市道の災害復旧工事)、(4)掘削・浸透問題に適用する場合の課題と将来、について先生の豊富なご経験に基づき、難解な有限要素法について、わかりやすくお話いただきました。最後に、事前に頂いていた福岡市の地下鉄陥没事故について、講

演内容、ご経験を踏まえたご回答があり、参加された職員の皆様には、大いに今後の業務対応の参考になったものと推察いたします。講師の杉本様はじめ、受講された皆様お疲れ様でした。

講演会終了後には、会議室を移して所長及び所幹部の皆様と防災ボランティアとの意見交換会を行いました。所側から、「平成28年度道路の施設点検とバリアフリーの点検結果」について、ご説明がありました。今年度は2回の実施(参加者総数94名。うち防災ボランティア18名。)をした結果、158件の不具合箇所を確認し、既に、対応できるものから対処しており、次の3年後に同じ指摘を受けないよう取り組んでいるとの、力強いお言葉をいただきました。現役の皆様、今後とも頑張ってください。



次いで、場所を移して所長はじめ所幹部職員の皆様と当日参加のボランティアメンバーとによる懇親会が盛大に開催され、現下の都政の課題、日頃のボランティア活動や現役時代の経験談など相互の情報交換や交流促進が図られ、大いに盛り上がることができました。鹿田所長はじめ南東建の皆様は深く感謝申し上げますとともに、ご参加いただいたボランティアの皆様、お疲れ様でした。

南東建班 柴田賢次

道路施設等点検始まる

●南東建班

6月15日、南東建防災ボランティア8名(丸岡、原田、織田、武内、杉本、矢内、佐々木、柴田:敬称略・以下同)は平成29年度第一回道路徒歩点

検を実施しました。当日は、前日の雨まじりの空模様が心配されましたが、会員皆様の日頃の行いの良さによるのか、曇り後晴れという中で実施できました。

この日、朝9時に事務所に集合し小松所長から、日頃の協力への感謝を込めたご丁寧なご挨拶をいただいた後、木下補修課長、中曽根統括課長代理、佐藤主事に挨拶し、事務所のバスにて、本日の点検現場の出発地である鶴川街道・栗谷交差点に向かいました。起点である栗谷交差点を9時30分にスタートしました。点検は左側班(原田、織田、杉本、佐々木)と右側班(武内、丸岡、矢内、柴田)とに分かれて開始し、途中、日向台交差点、菅原神社交差点を經由し、終点である町田街道・中町交番前交差点へと向かいました。

本日の点検区間には、路面補修工事が最近終了したばかりの箇所や歩道設置事業や道路・街路改修事業中の区間もありましたが、道路路面や排水升等でほとんど問題はなく、あえて指摘するとすれば、以下にのべるような点検結果でした。

主として、道路監察上の指摘箇所が10数件(立て看板、看板用の置石ブロックの存知等)と数箇所の補修検討箇所(道路案内看板の根元部分腐食、街路灯の塗装錆の進行)でありました。これらの箇所は、日頃から現役諸兄のご努力により適切に管理されているとは思いますが、万一、第三者への事故発生の防止等を図る見地から、指摘させていただきました。

特に、菅原神社交差点付近における鎌倉街道(鶴川街道一部重複)の整備進捗は目覚ましく、以前の狭かった道路に比べて幹線道路に相応しい広幅員の道路として快適な道路交通環境が実現されていました。そこで、所関係者のこれまでのご尽力に感謝する共に安全な道路交通の確保等を祈念して、神社の鳥居をバックに点検メンバー全員で記念撮影をさせていただきました。その後、終点の町田街道・中町交番前交差点に向かって幅員が狭い鶴川街道の点検を行い、午前11時30分頃、無事事務所に戻ることができました。

所に到着後、木下課長に本日の点検終了のご

挨拶をした後、お世話いただきました中曽根統括課長代理、佐藤様に御礼の挨拶をして帰路につきました。



駅に向かう途中で、いつものお店において参加者全員による懇親昼食会を盛大に行い、次回に向けての英気を養ったうえ、締めとなりました。

末筆で恐縮ですが、本日の点検におきまして、小松所長、補修課長さんをはじめ補修課関係職員の皆様に、心より感謝申し上げます。

また、ご参加いただきましたボランティア会員の皆様、お疲れ様でした。

南東建班 柴田賢次

●西建班

6月19日から7月11日まで、合計10名の会員が指示された区間を点検しました。写真の上は山縣会員の班、下は歩道の段差が見つく、グレーチングの網に車輪を取られる状況を体験する西建職員。



西建班 谷村秀樹

●三建班

7月13日午後、井出、瀧澤、望月の3名が、新青梅街道を大八木所長、山崎補修課長と共に点検しました。



三建班 望月裕

●北北建班

7月5日午後、藤井、野村、飯塚の3名が、事務所から指示された路線を点検しました。



北北建班 藤井賢介

新規会員の紹介

新年度を迎え、前号の紹介以降2名の方が入会されました。会員の高齢化が心配されるなか、若い力？で協会を引っ張って行ってください。

高尾 弘幸さん（二建班、ミニツアー）

小林 恒夫さん（北南建班、砂防）

協会からのお知らせ

- ① 総会でもご紹介しましたが、今年度は公園協会の菊池正芳さん、道路整備保全公社の成沢裕章さん、酒井達夫さん、川久保和子さんには、事務局として活動の様々な場面でお世話になります。よろしくお願いいたします。
- ② 今年度の施設見学会を11月7日(火)午後新東京丸に乗船し、2020オリンピック・パラリンピック競技会場予定地の視察を予定しています。奮って御参加ください
- ③ 各班の活動報告をお待ちします。ぜひ下記編集担当理事又は林まで連絡願います。林アドレス(mikio.hayashi@okumuragumi.jp)
- ④ 協会のH. P(東京都建設防災ボランティア協会掲示板)には、最新の情報、ニュースのバックナンバー、建設局報などが載っています。ぜひご覧ください。
アドレス(<http://tokyo-adv.info/>)

編集後記

今回は20周年記念誌の編集があったため、総会終了後、今号編集のモチベーションが上がらず苦労しました。送付いただいた原稿や写真を眺めているうちに、ようやく元に戻ってきました。今年度もよろしくお願いいたします。

発行人 杉浦 浩

発行 東京都建設防災ボランティア協会

新宿区西新宿 2-7-1

小田急第一生命ビル 20F

(公財)東京都道路整備保全公社内

編集 高橋 紀男、林 幹生

堀内 康彦、丸岡 敏夫

